

現場日記 5月14日(木)

■水質調査

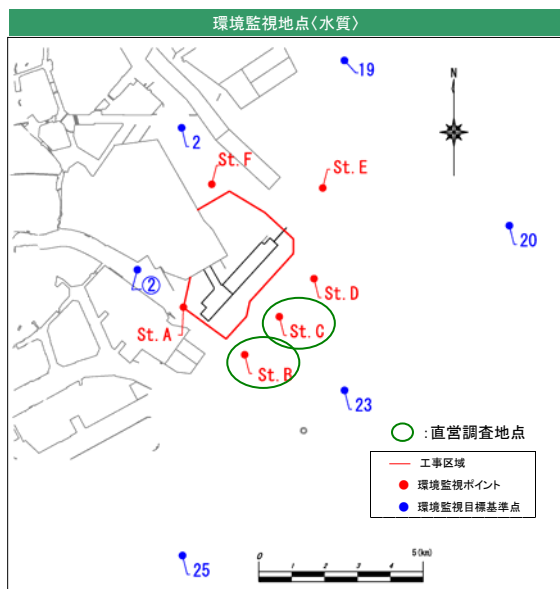
D滑走路建設工事では、土砂、石材等の投入において、濁りを極力発生させない作業船であるトレミー船を用いて工事を進めるとともに、日々の水質監視を実施しています。

水質監視地点は、D滑走路建設工事周辺海域の6地点とし、水質監視項目は、水温・塩分・濁度・DO・クロロフィル・pHとなっており、工事着工と同時に監視を実施しています。

当該工事は、多摩川河口という東京湾の水環境を考える上で重要な地点での工事であることから、発注者として、更なる環境調査の充実を図るため、職員による水質監視の強化(多項目水質計(現地観測機器)による直営調査の実施、目視確認)を行っています。

・調査実施方法

現地調査地点



多項目水質計



(測定項目:水温・塩分・濁度・DO・クロロフィル・pH)

本日の直営水質調査では、当日の工事による影響把握および前日の台風の影響把握を行うため、St.BとSt.Cの監視地点においてクロスチェックを行いましたので、一例として St.Bの調査結果を報告します。

調査は通常 2 人1組で行い、一方が多項目水質計を船上等から海底面上 1mまで垂下させる作業、他方がパソコンで観測データをチェックする作業を行います。



潮流の向きに注意しながら、多項目水質計を海底面上 1 mまで垂下させます。

多項目水質計を海底面に付着させてしまうと、海底の土砂が舞い上がってしまい正しいデータを取得出来ないの
で、慎重に垂下させる必要があります。



多項目水質計を垂下させているその横で、出力されたデータをチェックします。

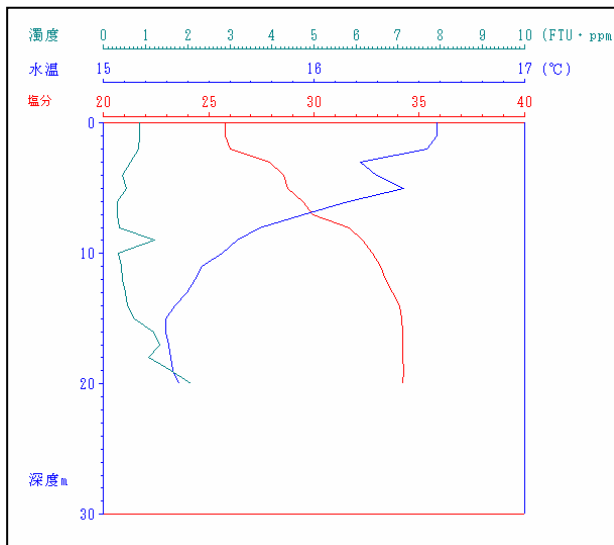
現在の垂下深度を適宜報告し、また、観測データの確認を行います。

・調査結果と考察

当日の現地状況

天候	気温	平均風速	風向	平均流速(表層)	流向	主な工事作業船
快晴	16°C	2.5m/s	東	0.2m/s	南西	砂撒船 3隻、起重機船 4隻、ガット船 2隻

調査結果



当日作業していた起重機船(第 28 吉田号)



グラフを見ると、濁度は約 0.8～2.1 (FTU)、水温は約 35.1～15.4(°C)、塩分は約 26～35 で推移していることが分かります。塩分の結果から、台風 2 号の接近による降水量および多摩川からの出水の影響が見られます。(5 月 13 日、14 日の 2 日間に台風 2 号の影響による降水量が羽田で約 50mm、府中で約 30mm、多摩川の出水が約 10mm 観測。)

一方、別途実施している環境監視においても管理目標値もクリアしていますので、台風 2 号による出水および工事影響の双方について、濁りの影響はありませんでした。

東京空港整備事務所ホームページ内でも、日々の環境監視調査結果を公表しています。

http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/haneda_saikaku/kankyuu/04_result.html